

尼崎 西宮芦屋港

兵庫県県土整備部土木局港湾課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

☎078-341-7711

URL : <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kowan/index.html>



1. 概況

尼崎西宮芦屋港は神戸港と大阪港の中間に位置し、昭和44年、重要港湾尼崎港、地方港湾西宮港、56条港湾芦屋港を統合して設立された重要港湾で、東西約10kmにおよぶ港湾区域を有しており、東より尼崎港区、西宮港区、芦屋港区の3港区からなっている。

尼崎港区は本港の中でも一番歴史が古く、利用され始めたのは文治元年（西暦1185年）頃とされているが、港としての形態が築かれたのは波止場を築造し、水運の利便を図るための運河の開削を行った明治維新前頃とされている。その後も埋立造成が行われ、当港区背後の臨海地帯は、石油化学工業等の多数の臨海性企業が立地する有数の工業集積地帯になっており、本港区はこれら阪神工業地帯の中心として重要な役割を果たしている。また近年の物流需要の変化、船舶の大型化に対応するため、東海岸町沖地区において-12m岸壁の整備が進められた。

さらに当港区では大阪湾圏域での廃棄物の広域処理の要請に応えるフェニックス事業が進められており、本埋立処分地において地域産業の活性化を促進するための工業用地等が計画されている。

また、尼崎臨海地域の自然をよみがえらせ、魅力と活力のある新しいまちづくりもめざして「尼崎21世紀の森づくり」を取り組むとともに、臨海地域の貴重な財産である運河や河川を核に自然と人と産業との良好な共生関係による持続的発展が可能な21世紀の環境先進都市の創造を目指す「21世紀の尼崎運河再生プロジェクト」を進めている。

西宮港区は古くから灘の酒の積み出し港として栄えてきたが、現在は建設資材の移入を中心とした内貿流通拠点としてその発展が期待されている。また本港区の鳴尾-10m岸壁及び甲子園-4m物揚場は、大規模地震発生時においても輸送基地として、甲子園浜地区では、阪神南地域の広域防災拠点としての機能がはたせるよう整備されている。なお本港区には阪神間で唯一残された砂浜が存在し、「人と海のふれあい」をテーマとした甲子園浜海浜公園として利用されている。

また当港区ではヨット、ウインドサーフィン、ボート等、海洋性レクリエーションによってにぎわっており、平成7年には青少年の健全なレクリエーション基地として西宮地区埋立地の南西部に約600隻収容可能な新西宮ヨットハーバーが供用されている。

芦屋港区では、背後の芦屋市の環境と整合を図りながら県・市・住宅公団によるシーサイドタウンが建設されており、さらに芦屋沖地区において、西宮港区と機能分担を図った民間のマリーナを中心とする総合的なレクリエーション施設及び良好な居住空間等の整備が進んでいる。

尼崎西宮芦屋港は、地域活力のあふれる港湾空間の創出や大阪港再生の先導的役割を担うため、多様な主体の参画と協働により、ニーズを満たした利用しやすい港を目指す「活力あふれる、にぎわい・うるおい・憩いの場」としての大阪湾のオアシスづくりを実現していくことが求められている。